

2024年度学校自己評価

東海大学付属諏訪高等学校

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営	年間教育目標の実践と点検・現状における課題の解決・改善に努める	教員の教育に対する熱意、学校の危機管理体制については、保護者よりも直接に享受する側である生徒からの評価が高い。教育活動に関する諸々の改革が、直接的か間接的にかかわらず、生徒のみならず教員の利益にもなることを念頭に取り組んでおり、これについても享受する側の生徒からの評価のほうが高い。	4.1	・学校改革の意識が生徒・保護者に伝わるように日々授業改善に取り組み、「学習と部活動の両立」をさらに目指していく。 ・充実した設備を有効に活用して授業の質を高め、日々の学習活動を中心に改善・改革を行い「学校改革」を行う。
学習指導	学習意欲喚起と学力向上 きめ細かな学習指導	学習活動のIT化を進め、授業支援アプリの活用の他、教材の精選、全学年の国・数・英・理・地歴公民を集中的に指導する期間を設定するなど、進学後の修学に必要とされる教科教養を習得させる方策を展開した。授業評価アンケートを年間2回実施し、昨年度と比較して0.5ポイント上昇し、90パーセント台の満足度を得た。	3.8	・大学付属校として大学進学後に必要とされる知識・学力の獲得を目標に学習意欲を高め、学力の定着を図る授業に取り組む。 ・授業担当者はもとより、学級担任、部活動顧問が連携して生徒たちの学習に対する意識の改善を目指し、家庭学習も含めた学習習慣の確立に取り組む。
クラス指導	基本的生活習慣の確立と心身の健全化 集団における役割と協調性の涵養	・生徒と保護者ともに、担任をはじめ、教科担当、クラブ顧問と生徒の好ましい人間関係が構築されていると評価している。これについては、外部機関による各種アンケートの結果からもうかがうことができる。また、生徒は教員と距離を縮め、より積極的に関わりたいという欲求が認められる。	4.2	・これまでと同様に、ホームルーム、授業、学校行事、クラブ活動など、教育活動全体を通して生徒の総合力を育てていく。 ・外部アンケート調査を分析し、対応策を探る努力を継続していく。
生活指導	規範意識を定着させる生活指導 安全安心、秩序ある学校生活	服装頭髪、挨拶や礼儀の指導には生徒・保護者ともに満足度が高い。生活上の相談にもカウンセラーと連携している。自転車乗車時のヘルメット着用率が県内トップであるという自覚もあり、交通安全に対する生徒の意識は高い。	4.3	・安全・安心を心がけた危機管理をめざし、体制の見直しを図る。 ・早期に生徒の抱える問題に気づき、相談や助言を行うことができるよう、研修の機会を設け、学年、学校として組織的に対応していく。
進路指導	生徒個人に応じた目標設定と進路希望の実現	大学短大への進学が70%、専門学校を含めた進学が90%であることより、進学に関する認識は生徒保護者ともに高い。進路情報の発信と進路指導については、生徒・保護者が有意義と感じている。進路希望の多様化に応えるよう、受験での進学希望者への学力向上のための講座は継続実施する。	4.1	・進路に関する情報発信と面談指導は、生徒保護者ともに高い評価である。 ・生徒の多様な進路希望には、学級担任をはじめ進路指導担当、教科担当教員が連携して生徒の進路希望の実現を目指す。
特別活動	生徒会活動と部活動の活性化	・例年通りに生徒会活動や学校行事への参加意欲が高い。委員会活動については、生徒がより意欲的に活動できる配慮が必要な委員会もあり、取り組みの改善が必要である。 ・文化系・運動系問わず、放課後のクラブ指導に対する教員の熱意に対しては、生徒・保護者から高い評価と支持を得ており、顧問教諭の自負につながっている。	4.1	・今後も教員が自発的な生徒会活動を支援するスタンスを維持していく。 ・運動系クラブが大会成績のみを意識した活動に偏らないよう、学業との両立はもちろん、長い人生における生活の充実、その在り方など、活動の本質的な意義を理解させる指導を継続する。
研究・研修	授業改革の推進と教員の資質向上への取り組み。地域との積極的な連携と外部講師による体験的学習の推進。	・校内外の教員研修に積極的に参加し、教員が学び合い、教科指導の質を高めることができた。 ・生徒が外部で研究発表する機会を設け、探究活動全体の質的向上を図っている。 ・生徒が海外で研修する機会を設定し、参加生徒の満足度は高い。	4.0	・国内外での外国文化体験の機会を現在以上に増やし、グローバルな視野を備えた人材育成により、地域の行政・産業に貢献していく。 ・ハワイ英語研修、オンライン英会話、海外短期留学など、語学研修や国際交流の各種プログラムを企画する。 ・進路指導に直結した教員研修を教科単位で主催していく。